

## 精神科急性期病棟におけるクリニカルパス導入の試み

多摩病院 看護師 ◎多田 進 瀧澤香那

### 1. 目的

本来は産業・生産工程における効率化・標準化の方法として使われていた Critical Paths Method が医療の中に導入され約 30 年が経過し、わが国においても現在では、提供する医療の重要なツールのひとつとなっている。精神科領域に関しても、急性期医療の部分では入院期間の短縮や、医療の質の確保と効率化は避けて通れなくなっており、徐々にクリニカルパスへの関心が高まってきている。当院においても更なる精神医療の推進を図るため平成 28 年 5 月に新病棟を立ち上げ、入院率が前年比 30 パーセント増と高く推移していた。そこで、限られた人数で日々多忙を極め、煩雑になっている業務を整理することによって看護の標準化を図り、提供するケアの一貫性と質の確保をしようと思った。そのため業務改善も兼ねてこの研究を選び、精神科急性期病棟（以下、当病棟とする）において試験的にクリニカルパスを作成導入し、スタッフの反応から、その有用性を検証した。

### 2. 方法

期間：2017. 7/1～8/31 対象：当病棟の看護師 9 名、准看護師 4 名

研究方法：①試験的なクリニカルパスの作成、導入。②アンケートを用いた調査研究。

### 3. 結果

導入前アンケートにおいては「現在の書類様式では入院後の進捗状況が分かりにくい、どのようなケアが行われているのか分かりにくい」「書類が多く負担になっている」との回答が 90%であった。クリニカルパスを導入してからのアンケートでも新たな書類が増えたことによるものか、同様の質問に対して 67%が依然として「負担になっている」との回答であった。パス導入後、病棟スタッフの意見を取り入れながら、一部パスを修正し使用を開始。結果、「情報共有やケアを明確化しやすかった」「パス書類 1 枚から情報収集ができるため時間短縮になった」と概ね肯定的な意見を得ることができた。

### 4. 考察

パスの作成をするにあたって、まずは病棟の特性の把握に努めた。そこで隔離・拘束期

のパスを作成し、あえて時間軸での自主的な設定も行わず、期間として捉え、幅を持たせるように考慮した。また、煩雑になっている業務を簡素化するために、パスの内容もチェックシートの形態にして簡素化を図った。パス導入後、従来の看護記録に加えパスを書くためスタッフの負担感が増え、記録に関わる作業量が増加したのは事実である。しかし「パス書類1枚から全ての情報収集ができるため時間短縮になり便利だった」との声もある。これはパスの使用により一目で内容を分かるようにしたため、後から知りたい情報を容易に見つけ出す事が出来る様になり、このことが記録閲覧に要する時間の短縮に繋がったためではないかと考える。森口<sup>1)</sup>は「看護業務に占める時間の多い「記録」業務を簡略化・簡素化することで効率化を図り質の良い看護を提供できる」とも述べている。率直に言ううとアンケート結果からは業務の効率が劇的に変化を示したと結論付けるのは難しい。しかし看護業務で多く時間を忙殺される「記録」の簡素化もパス導入を試みたことで、少なからず情報共有や可視化へは有用であり、ケアの効率化と質の保証への一歩へとなったのではないだろうか。

## 5. 総括

今回時間的な制約もあり病棟での自主的研究の枠から広げる事が出来なかったが、小瀬古<sup>2)</sup>らは「クリニカルパスは、患者も含め、患者と関わるすべての医療従事者が患者の回復を促進する目標を共有し、情報を一元化することにこそ、意義がある」と指摘している。当病棟では2018年6月から急性期治療病棟入院料1の認可を受け、導入を始めている。それに伴い新規入院患者中心の病棟運営が求められ、入院後3ヶ月以内に自宅、もしくは施設に退院する患者が一定の比率で確保されなければならない。このためには入院から退院、あるいは次の処遇決定に繋がる治療と看護を3ヶ月を限度として効率よく進める必要に迫られる。そのためにはクリニカルパスが必要になると考えられ、病棟の自主的な研究の枠から病院全体において医師・看護師・その他のスタッフとの協働のもとで、パスを作成していかなければならないと考える。

### <引用・参考文献>

- 1) 森口直子：看護業務の情報化に関する基礎的研究. 厚生年金病院年報, 25 巻
- 2) 小瀬古伸幸, 大谷須美子：これが「私たち」流のクリニカルパス. 精神科看護, vol. 36